

ぼくのどて

二川小学校 一年 みやた はると
ぼくは、かわであそんだことがありまけん。
アールやうみでは、あそんだことがありません。

かわのみずであそんだことはないけれど、
どてやかあでは、はなびをしたりおまつりに
いったり、しばすべりをしたり、ぼくはたの
しいおもいでがいっぱいです。

このまえ、どてのところになながあいてい
ました。いぬのさんぽをしていたおじさんが
たぬきのいえだとおしえてくれました。ぼく
は、たぬきさんち、どてがすきだからかな
いっしょにあそぶのかなとおもいました。

小学生低学年
作文部門
最優秀賞

野田市立二川小学校

宮田 陽人 さん

タイトル
「ぼくのどて」

小学生低学年
絵画部門 最優秀賞
熊谷市立妻沼小学校
小野田 滉 さん

タイトル
「ぼくのすきなとねがわ」



小学生高学年
 壁新聞部門 最優秀賞
 久喜市立栗橋小学校
 小林 琉夏 さん

タイトル
 「治水新聞」

びっくり! 朝起きたら家の前が川になってた!!

2015年 9月10日

2015年 9月10日の夜、小森家の庭裏に雨が降ってきた。雨は止まらなかった。朝起きたら家の前が川になってた!!

洪水こわい!!

どうやって大雨の被害を防ぐ?

治水新聞

1947年(昭和22)9月に、大変大きな「カスリーン台風」という台風が来たことをきっかけに利根川の「治水」が行われるようになりました。

利根川は昔は大きな水害の多い川でしたが、下流までの治水を行うことで水害を防ぐ努力がされています。

ダム
 大量の水が一気に流れないようにする「ダム」がある。

治水
 治水とは、大雨のときに川の水が溢れ出ないようにするための取り組みのことです。

治水の歴史
 昔は、利根川の水害は毎年発生していました。治水の歴史は、水害を防ぐための取り組みの歴史です。

治水の未来
 治水の未来は、治水の取り組みをさらに進め、水害を防ぐことです。

治水の大切さ
 治水の大切さは、水害を防ぐことです。治水の取り組みをさらに進め、水害を防ぐことです。

まとめ
 昔は「利根川の水害は毎年発生するもの」として、はらんだ時の被害が毎年一層に増えていたように思いました。何度か起きた大きな水害により治水の大切さを知り、今は、水害が起きる前に「治水」をするようになっていきました。しかし今でも、大雨のときには洪水の危険があることを知って、少しでも被害を少なくするための努力や、協力が大切だと思いました。

未来へつづく
 原道小 五年 加納 琉聖
 ぼくは、思わずそう叫びそうになりました。
 低学年の頃、家族と埼玉県の東秩父村や寄
 居町という所に、イワナとサワガニを取りに
 遊びに行きました。川の水は透き
 通っていて、すくまれました。たのそ覚えて
 います。ぼくの家の近くにも、こんなきれいな
 川があったらいいのにな。と思いました。

父にその話をしたら、昔はこの地区を流
 ながれ流れてきた話をしてくれました。タナ
 ゴやイナゴやアユやサマシイやアサギや
 毛泳いでいて、シジミも取れたので川に入
 った取って遊んでいたそうです。今では、その
 川もコンクリートで囲われた川となり、トロ
 トロの臭いヘドロが、ばい菌です。父は、
 たびたび残念そうでした。

ぼくの家は、利根川の下流のそばにありま
 す。ぼくが生まれるずっと前に、台風で土手が崩
 れて洪水の大きな被害にあつたそうです。そ
 のため、二度と洪水がなないようにと、ス
 ーパ
 ー堤防をつくりました。しかし、洪水が地城
 の田畑に栄養を与え、美味しなお米や野菜の
 産地として有名になつたことも事実です。今
 では、釣りや水の上スポーツ、河川敷では、野
 球やサッカー、散歩やサイクリング等にも利
 用されていきます。

今年、宿泊学習に多くに訪れ、川の事を
 調べました。山などの上流では、急に降る大
 雨により、洪水を起こすことがあつたそう
 です。原因の一つは、森林の伐採があるそう
 です。木の根っこは、雨水を貯め、ダム
 の働きをします。しかし、人が木を身勝手
 に切つてしまつたことで、雨はそのまま川
 を流れ、土壌を崩し、洪水を起こしてしま
 うていうことを知りました。

山も森も川もぼく達の生活に欠かせませ
 ぬ。自然は未来への宝物です。環境を考
 えて、強く思いました。

小学生高学年 作文部門 最優秀賞 加須市立原道小学校 加納 琉聖 さん
 タイトル「未来へつづく」

小学生高学年
絵画部門 最優秀賞
久喜市立栗橋小学校
森岡 成美 さん

タイトル
「夕焼け時の利根川」



中学生 壁新聞部門
最優秀賞 小山市乙女中学校

中田結月さん
田村奏生さん
塚田綾乃さん

タイトル
「渡良瀬遊水池の役割」

渡良瀬遊水池

世界的に減っている
湿地環境のなかで自
然豊かな貴重な場所
中田 渡良瀬遊水池は登録
された。

約211種、オオハ
シバ科の植物が主種。

約1000種、オオハ
シバ科の植物が主種。

約1000種、オオハ
シバ科の植物が主種。

田村 遊水池の役割
足尾銅山
田中正造

遊水池の役割
足尾銅山
田中正造

遊水池の役割
足尾銅山
田中正造

中田 遊水池の役割
足尾銅山
田中正造

遊水池の役割
足尾銅山
田中正造

遊水池の役割
足尾銅山
田中正造

1 遊水池は遊水池の役割が、足尾銅山の公害を浄化し、自然環境を回復させた。

2 遊水池は遊水池の役割が、足尾銅山の公害を浄化し、自然環境を回復させた。

3 遊水池は遊水池の役割が、足尾銅山の公害を浄化し、自然環境を回復させた。

4 遊水池は遊水池の役割が、足尾銅山の公害を浄化し、自然環境を回復させた。

小山市の取組

自然環境を回復させ、再生した。

自然環境を回復させ、再生した。

自然環境を回復させ、再生した。

再生

自然環境を回復させ、再生した。

自然環境を回復させ、再生した。

自然環境を回復させ、再生した。

足尾銅山

自然環境を回復させ、再生した。

自然環境を回復させ、再生した。

自然環境を回復させ、再生した。

田中正造

自然環境を回復させ、再生した。

自然環境を回復させ、再生した。

自然環境を回復させ、再生した。

変化する巴波川

栃木南中学校一年 小関 夢乃

私の家の近くには巴波川が流れています。小学生の時は、毎日巴波川の土手を通って通学をしていて、鯉が泳いでいる姿を見たり、学校の奉仕作業で巴波川の草取りをしたことがあります。また巴波川は町なかにも流れていて、五月にはこいのぼりがたくさん流ぐイバントがあつたり、舟があつたりして、栃木市に任んでいる人だけでなく、観光に来る人も楽しませてくれます。

そんな楽しい思い出の多い巴波川ですが、一度だけ怖かつたことがあります。それは二年前の関東東北豪雨です。いつも見えていた穏やかな巴波川とは違って、たくさん降つた雨のせいで川の水があふれてしまい、家や田畑が水に浸かつてしまつた。テレビや新聞で見ました。私の親せぎの家でも、野菜を作っている畑が水に浸かつて、作っていた野菜がダメになつてしまつたり、家の床の下まで水が来た話をお母さんから聞きました。私はいつも見ていた巴波川がこんなことになつていると聞いてとても驚きました。また川は楽しいところという考えを持つていたけれど、怖い一面もあることをこのとき知りました。

あれから二年がたち、中学生になつて、通学路も変わり、巴波川を見る機会は減り、川遊びなどもしなくなつたので、今はあまり川への親しみがなくなつてしまいました。なので今後は川に関するイベントなどに参加してまた川に親しみをもつて見たいと思っています。そして、みんなが安心して川で遊んだりできるように、二年前の大雨のような川を怖いと思うことが起きなければ良いなと思いました。

中学生 作文部門 最優秀賞 栃木市立栃木南中学校 小関 夢乃さん

タイトル「変化する巴波川」

中学生
絵画部門 最優秀賞
小山市立乙女中学校

須田 美侑 さん

タイトル
「川のある風景」

